教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 教育学科　　資格： 教授　　氏名： 酒井　達哉

研究分野	研究内容のキーワード
教育学	教科教育学（生活科），総合的学習，生活教育
学位	最終学歴
博士（教育学）	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科博士後期課程単位取得退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.教育演習（生活科ゼミ）における西宮市立小学校との連携	2016年から現在に至る。	武庫川女子大学がある鳴尾地区は、明治後半から昭和初期にかけて、いちごの栽培が盛んであった。そこで、その「鳴尾いちご」を地域教材として活用するために、歴史を文献で調べたり、学校教育館の屋上などで栽培したりしている。そして、2016年度より西宮市内の小学校2年生を対象に、いちごを摘む体験学習や出前授業を実施している。この出前授業では、児童に鳴尾いちごの歴史を分かりやすく伝え、また、ペットボトル等を利用して、一人一鉢ずつ、いちごを栽培する方法を指導している。現在では西宮市立小学校２校で授業を行っている。
2.学校教育館の設備を活かした取り組み	2015年から現在に至る。	教育演習や生活科指導法などの授業において、学校教育館のビオトープや屋上のサイエンスフィールドを学習の場として活用している。ビオトープの管理はゼミで行っており、ノハナショウブやヒツジグサなど、西宮市内の湿地で見られる植物を栽培している。
3.体験的な学びを効果的に組み込んだ教育方法	2012年から現在に至る。	担当する授業科目において、体験的な学びを取り入れ、学生が科目に関する理解を深められるように工夫している。例えば、新教1年の生活科内容論では、学生は各自で野菜を栽培したり、落ち葉などの自然の材料を集めて「落ち葉アート」を制作したりして、生活科の教科内容を体験を通して学んでいる。
2 作成した教科書、教材		
1.学びを創る・学びを支える－新しい教育の理論と方法－	2020年3月	広石英記、酒井達哉、以下9名。一藝社 教育の現場は、生徒どうし、生徒と教師、更に生徒と教材、など常に複雑な出会いが生起し、互いが互いを刺激し、学び合う、生きた空間である。本書では学びを支援する様々な工夫や英知のエッセンスやその意味、さらには、そこの潜在している問題性や課題にも焦点を当てて解説している。第12章「総合的・探究的な学習をデザインする」を担当。pp.153-164.（全頁数206頁）
2.総合的な学習の時間の指導法	2018年10月	共編著、村川雅弘、酒井達哉、以下４名。日本文教出版 本書は、総合的学習の時間に関する理論編と事例編から構成され、理論と実践の融合を図ることをねらいとしており、教職課程コアカリキュラムにも対応している。本書の特長は小・中学校を含めて全国各地の優れた１４本の実践を掲載していることである。理論編⑥⑦、事例編③を担当。pp.30-35，pp.36-39，pp.96-107.（全頁数207頁）
3.読書教育の方法－学校図書館の活用に向けて－	2015年1月	立田慶裕、今西幸蔵、酒井達哉、以下10名。学文社 本書は、学校教員を主たる対象とし、司書教諭や学校司書、これから学校の読書教育について学ぼうとする人々などに読書教育の考え方や学校図書館活用のための多様なヒントを提供することをねらいとしている。8章を担当。pp.110-119.(全頁数231頁)
4.総合的な学習　充実化戦略のすべて	2006年8月	共編著、酒井達哉、村川雅弘。日本文教出版 総合的な学習の時間の具体的な実践事例を取り上げ、カリキュラムの継承と発展、地域素材の活用、体験と

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
		学びの動機づけ、教科学習と総合的な学習の時間との関連、多様な評価方法などの様々な視点から分析している。また、児童の学習活動の過程を記録したＤＶＤを付けている。1章～7章及び資料を担当。pp.13-56, pp.61-68, pp.73-81, pp.85-95, pp.99-111, pp.117-127, pp.166-174.（全頁数176頁）
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.教育研究社会連携推進室「地域を対象とした連携推進支援事業」採択	2020年	本学の教育研究社会連携推進室主催の、地域を対象とした連携推進支援事業において「鳴尾いちごを地域教材として活用した「ふるさと教育」の授業づくり」という事業名で採択された。
2.地域の洋菓子店が実施した鳴尾いちごを使った菓子の開発に協力	2019年から現在に至る。	西宮市の株式会社ベルンが行った、ひょうご農商工連携ファンド事業助成金を活用した、鳴尾いちごを使った菓子の開発に生活科ゼミとして協力し、材料となる鳴尾いちごの提供や商品の箱に入れるしおりの作成などの協力を行った。その後も阪神甲子園球場やベルンの店舗などで商品の販売は継続されている。
4 その他		
1.西宮市大学交流センターの講座 講師	2015年後期	2015年度後期に、西宮市大学交流センター（西宮市大学交流協議会）において講義を担当した。
2.生涯学習鳴尾大学の講師	2015年から現在に至る。	2015年度から生涯学習鳴尾大学（公益財団法人鳴尾会）において講座を担当している。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.小学校教諭　専修免許状	2011年3月	
2.中学校教諭　二級普通免許状（英語）	1987年3月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.兵庫教育大学　奨励賞	2015年8月	兵庫教育大学の「教育実践研究活動等に係る表彰」
2.言語活動指導者養成研修（国語力向上指導者養成研修） 講師	2014年から2016年	主催:独立行政法人教員研修センター，共催：文部科学省
3.独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究」に係る研究会委員	2011年10月から2013年3月	本調査研究は、子どもの読書環境の実態を把握するとともに、自治体の読書施策と子どもへの影響や効果、発達段階に応じた読書活動とキャリア形成などを通して、具体的な指標や事例を得ることにより、子どもの読書活動の推進に資することを目的とした。
4.読売教育賞　生活科・総合学習部門　最優秀賞	2009年7月	主催：読売新聞社
5.文部科学省『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）』ワーキンググループ委員	2009年6月から2010年3月	文部科学省は総合的な学習の時間を一層充実させ、学校現場における教育実践の質的向上を図るための指導資料を作成した。その作成にワーキンググループ委員として参加し、調査・執筆（第２章「年間指導計画の作成」など）に携わった。
6.東書教育賞　教科指導・学校経営部門　最優秀賞	2008年1月	主催：東京書籍株式会社
7.博報賞 教育活性化部門 個人の部	2007年11月	主催：財団法人博報児童教育振興会
8.兵庫県優秀教職員表彰	2007年1月	兵庫県教育委員会
9.読売教育賞　生活科・総合学習部門　優秀賞	2005年7月	主催：読売新聞社
10.兵庫県教育委員会 教科等指導員（小学校 総合的な学習の時間）	2004年から2006年	兵庫県教育委員会
11.兵庫県生物学会 研究奨励賞	2001年5月	兵庫県生物学会
12.東書教育賞　教科指導や学校経営に関する実践部門　奨励賞	2001年1月	主催：東京書籍株式会社
13.月刊『兵庫教育』 「生きる力を育む学習指導」論文特選	1999年1月	主催：兵庫県立教育研修所
4 その他		
1.伝統文化の学びの充実事業 連絡協議会 講師	2020年7月から2022年2月	主催：兵庫県教育委員会 義務教育課
2.伝統文化の学びの充実事業 全県発表会 記念講演 講師	2020年1月	主催：兵庫県教育委員会 義務教育課

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
3.高槻市研修センター 総合的な学習の時間研修 講師	2019年12月	主催：大阪府高槻市研修センター
4.全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会（兵庫大会）研究協議会（中学年部会）講師	2019年11月	主催：全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
5.全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会（石川大会）課題別分科会 講師	2018年11月	主催：全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
6.東・北播磨地区生活科・総合的な学習部実践発表会 講師	2018年2月	主催：東・北播磨地区小学校教育研究会 生活科・総合的な学習部会
7.県立高校で考える県政150周年記念事業 講師	2017年12月から2018年11月	主催：兵庫県立鳴尾高等学校
8.神戸市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習部会全員研修会 講師	2017年10月	主催：神戸市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習部会
9.「奈良TIME」･総合的な学習の時間指導者研修会	2016年10月	主催：奈良県教育委員会
10.神戸市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習部会研修講座 講師	2016年8月	主催：神戸市小学校教育研究会 生活科・総合的な学習部会
11.丹波篠山市教育委員会 地域とともにある学校づくり研修会 講師	2016年6月から2019年1月	主催：丹波篠山市教育委員会
12.岡山県立真庭高等学校 「総合的な学習の時間」成果発表会 講師	2016年2月から2019年2月	主催：岡山県立真庭高等学校
13.兵庫県小学校教育研究会 生活科・総合的な学習部会夏季研修会 講演会講師	2015年8月	主催：兵庫県小学校教育研究会 生活科・総合的な学習部会
14.福山市・福山市立大学連携事業 保幼小連携実践報告会 研修会講師	2014年9月	主催：福山市・福山市立大学
15.福山市・福山市立大学連携事業 保幼小連携実践報告会 講演会講師	2014年2月	主催：福山市・福山市立大学
16.加西市立総合教育センター 研修講座「環境教育研修」講師	2013年8月	主催：加西市立総合教育センター
17.西宮市教育委員会 企画研修「授業力アップ研修」講師	2013年4月から2013年5月	主催：西宮市教育委員会
18.徳島県小学校教育研究会 総合部会 夏季研修会講師	2011年8月	主催：徳島県小学校教育研究会 総合部会
19.兵庫県内外の小・中学校の研究発表会及び校内研修等に関わる講師	1995年から現在に至る。	兵庫県内外の小・中学校における研究発表会及び校内研修等の講師を数多く務めている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.学びを創る・学びを支える－新しい教育の理論と方法－（再掲）	共	2020年3月	一藝社	広石英記、酒井達哉、以下9名。一藝社 教育の現場は、生徒どうし、生徒と教師、更に生徒と教材、など常に複雑な出会いが生起し、互いが互いを刺激し、学び合う、生きた空間である。本書では学びを支援する様々な工夫や英知のエッセンスやその意味、さらには、そこの潜在している問題性や課題にも焦点を当てて解説している。第12章「総合的・探究的な学習をデザインする」を担当pp.153-164.（全頁数206頁）
2.総合的な学習の時間の指導法 （再掲）	共	2018年10月	日本文教出版	共編著、村川雅弘、酒井達哉、以下４名。日本文教出版 本書は、総合的学習の時間に関する理論編と事例編から構成され、理論と実践の融合を図ることをねらいとしており、教職課程コアカリキュラムにも対応している。本書の特長は小・中学校を含めて全国各地の優れた１４本の実践を掲載していることである。理論編⑥⑦、事例編③を担当pp.30-35, pp.36-39, pp.96-107.（全頁数207頁）
3.教育学科への招待	共	2015年4月	武庫川女子大学 出版部	矢野裕俊、安東由則、酒井達哉､以下32名。 本書は、武庫川女子大学に教育と研究の拠点として学校教育センターが設立されるにあたり、教育学科の教員が学生や一般の読者向けにそれぞれの研究・教育の内容についてまとめたものである。「感性を豊かにする本物の自然体験」の節を担当。pp.102-105.(全頁数159頁)
4.読書教育の方法 －学校図書館の活用に向けて－（再掲）	共	2015年1月	学文社	立田慶裕、今西幸蔵、酒井達哉、以下10名。 本書は、学校教員を主たる対象とし、司書教諭や学校司書、これから学校の読書教育について学ぼうとする人々などに読書教育の考え方や学校図書館活用のための多様なヒントを提供することをねらいとしている。8章を担当.pp.110-119.(全頁数231頁)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
5.小学校国語科授業アシスト　実物資料でよくわかる！教材別ノートモデル40	共	2012年8月	明治図書出版	堀江祐爾、三木惠子、酒井達哉、以下12名。 本書は、国語科における効果的なノート指導の具体例と授業実践の展開例を紹介している。第２章「具体例でよくわかる！教材別ノートモデル40」の４年生「みんなで新聞を作ろう」を担当。pp.87-90.（全頁数146頁）
6.ゆたかな兵庫の自然	共	2011年12月	兵庫県生物学会	武田義明、本荘四郎、酒井達哉、以下47名。 本書は、「兵庫の豊かな自然力」をテーマに兵庫県の自然の持つ魅力を、昆虫、植物、動物、自然保護などの多岐にわたる内容で紹介している。「小学生が発見した篠山層群の恐竜化石」の節を担当。pp.50-53.（全頁数157頁）
7.学びを起こす授業改革　－困難校をトップ校へ導いた”大岱システム”の奇跡ー	共	2011年3月	ぎょうせい	村川雅弘、田村知子、酒井達哉、以下１名、及び東京都東村山市立大岱小学校。 本書は、生徒指導面及び学力面の課題を独自のシステムで解決してきた東京都東村山市立大岱小学校の研究内容を紹介している。第１部第１章「国語科編 子供が学び切る１時間」を担当。pp.14-18.(全頁数193頁)
8.「ワークショップ型校内研修」で学校が変わる　学校を変える	共	2010年5月	教育開発研究所	村川雅弘、田上富男、酒井達哉、以下36名。 本書は、成果をあげる25の「ワークショップ型校内研修」プランを収録し、実際の方法と手続きを図表でわかりやすく解説したものである。第４章９節「外部評価を活用した授業づくり」を担当。pp.134-137.(全頁数207頁)
9.小学校総合的な学習ビジュアル解説24	共	2009年1月	日本文教出版	村川雅弘、黒上晴夫、 酒井達哉、他21名。 新学習指導要領の改訂のポイントにもとづいて、総合的な学習の時間を編成するに当たっての留意事項を具体的に紹介している。「学級経営をどのように関連させたらよいか」「言語活動をどのように充実させるとよいか」の項目を担当。pp.38-41，pp.54-57.（全頁数136頁）
10.教科と総合の関連で真の学力を育む	共	2008年5月	ぎょうせい	村川雅弘、野口徹、 酒井達哉、他21名。 総合的な学習の時間の意義や多面的な教育効果を示すとともに、総合的な学習の時間を教科と関連させることによる有効性を理論的・実践的に確認している。理論編「総合的な学習の時間と教科を関連させて言語力を育む手法」と実践編「大山の自然環境フェスタを開こう」を担当。pp.50-62，pp.144-151.（全頁数245頁）
11.環境教育指導プラン　高学年	共	2008年3月	文溪堂	日置光久、井田孝、酒井達哉、他13名。 本書は、学校全体で環境教育を展開するに際し、教師が児童の実態を的確に把握し、指導計画を適切に作成することと、環境教育のねらいに迫るように指導方法の工夫改善し教材の開発と工夫を行うことの重要を述べている。第3章の指導プラン編「絶滅の心配のある草花「サギソウ」を守ろう」の項を担当。pp.142-149.(全頁数191頁)
12.環境教育指導プラン　中学年	共	2008年3月	文溪堂	日置光久、井田孝、酒井達哉、他８名。 本書は、学校全体で環境教育を展開するに際し、教師が児童の実態を的確に把握し、指導計画を適切に作成することと、環境教育のねらいに迫るように指導方法の工夫改善し教材の開発と工夫を行うことの重要性を述べている。第3章の指導プラン編「みんな大好き！森の王者カブトムシ」と「世界最小！ハッチョウトンボ復活大作戦」の項を担当。pp.126-133，pp.150-157.（全頁数175頁）
13.総合的な学習　充実化戦略のすべて（再掲）	共	2006年8月	日本文教出版	酒井達哉、村川雅弘、田村学、他６名。 総合的な学習の時間の具体的な実践事例を取り上げカリキュラムの継承と発展、地域素材の活用、体験と学びの動機づけ、教科学習との総合的な学習の時間の関連、多様な評価方法、ワークショップ型校内研修、カリキュラムマネジメントなどの様々な視点から分析している。また、児童の学習活動の過程を記録したＤＶＤを付けている。1章～7章及び資料を担当。pp.13-56，pp.61-68，pp73-81，pp.85-95，pp.99-111，pp.117-127，pp.166-174.（全頁数176頁）
14.生きて働く力を培う国語学習	共	2003年7月	甲南出版社	中西節、酒井達哉、田中徹、他23名。 言葉の問題はあらゆる教科の言語活動を通して言語力の向上を図っていくべきであり、本書には小学校における各学年の実践記録が記載されている。「今田の自然環境フォーラムを開こう－総合的な学習の時間と連携した国語科の授業－」の項を担当。pp.179-191.（全

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				頁数245頁）
15.子どもたちのプロジェクトS「総合的な学習」－8つの熱き挑戦！	共	2002年10月	NHK出版	村川雅弘、酒井達哉、山脇隆史、他６名。 学校の総合的な学習の時間で行うプロジェクトは児童が生涯にわたって取り組んでいく様々なプロジェクトのスタートにあたる。本書では、総合的な学習の時間において、児童が協力し合い、様々な立場、年代の大人の力を借りながら目標の実現を果たしているプロジェクト型学習の実践を記載している。「オヤニラミを絶滅から救え！」の章を担当。pp.101-121.（全頁数198頁）
16.子どもの表現でつくる総合学習	共	2000年5月	百合出版	小宮山繁、伊藤和美、酒井達哉、他９名。 総合的な学習の時間は教科の枠を越え出ることによって、より一層充実させることを目的としている。そのために本書では「子どもの表現」と「総合学習」とを結びつけるためのさまざまなアイデアを実践的・理論的にまとめている。「私たちで作りあげてきた長い物語が終わるとき－むらくもスーパーアクアリウムを地域に公開しよう－」の題で高学年の章を担当。pp.49-64.（全頁数165頁）
17.総合的な学習 ６年 年間学習計画と実践資料	共	1999年4月	小学館	佐藤正和、飯田紀代子、他23名。各教科等の枠にとらわれずに柔軟な発想によってテーマを選び、学習内容を構成し、主体性を大切にしつつ、総合的に課題を捉えていく学習の年間指導計画と実践資料を具現化している。「篠山のゲンゴロウを守るために私たちにできること」の項を担当。実際の執筆は酒井達哉であるが、執筆者には学校長大江奉也の名が記載されている。pp.74-77.（全頁数130頁）
18.総合的な学習５年 年間学習計画と実践資料	共	1999年4月	小学館	佐藤正和、飯田紀代子、他23名。各教科等の枠にとらわれずに柔軟な発想によってテーマを選び、学習内容を構成し、主体性を大切にしつつ、総合的に課題を捉えていく学習の年間指導計画と実践資料を具現化している。「オヤニラミを守ろう」の項を担当。実際の執筆は酒井達哉であるが、執筆者には学校長大江奉也の名が記載されている。pp.62-65.（全頁数130頁）
19.植物観察ガイドブック 『丹波の森の草花』	単	1995年3月	財団法人丹波の森協会	生活科や総合的な学習の時間、理科の授業などで活用される教材として作成。丹波地域の野山で手軽に観察できる130種類の草花を選び、児童が興味がもてるように草花の写真に分かりやすい文章で説明を加えている。（全頁数140頁）
20.国語科の学習活動と評価カード	共	1995年1月	小学館	小森茂、伊﨑一夫、酒井達哉 他23名。 国語科の観点別学習状況をもとに授業と評価の一体化を目指し、指導計画と評価活動の実際をまとめている。２年生「くわしく思い出して書きましょう」と５年生「表現を工夫して書こう」の項を担当。pp.56-61, pp.168-173.（全頁数240頁）
2 学位論文				
1.大正末期・昭和初期の農村部小学校における生活教育の展開－兵庫県古市尋常高等小学校の事例にもとづいて－	単	2018年3月	武庫川女子大学大学院 臨床教育研究科臨床教育学専攻	本研究は、大正末期から昭和初期の農村部小学校の生活と教育の結びつきの諸相を生活教育と捉え、その展開に注目し、その内実や特徴を実践の背景とも関連づけて明らかにするものである。それにより、農村小学校において行われた生活教育の豊かな内実を明らかにし、これまでのやや狭い生活教育の捉え方を越えて、それについての新たな知見を提供することができた。
2.国語科と「他教科等における言語活動」との関連についての研究 －総合的な学習の時間との関連を中心に－	単	2011年2月	兵庫教育大学大学院 学校教育研究科教科領域教育学専攻（言語系コース）	研究の目的は、国語科と総合的な学習の時間との関連的な指導を効果的に展開するための方途を探ることである。国語科と総合的な学習の時間との関連的な指導を効果的に行うための要点と指導上の工夫を示し、授業実践の考察を通して、これらの要点と工夫が授業改善において有効性をもつものであることを確認した。
3 学術論文				
1.認知系・非認知系コンピテンシーを輻輳的に育成する生活科授業開発 －統合教科の新しい展望に向けて－(査読付)	共	2022年3月	『学校教育センター紀要』第7号（武庫川女子大学 学校教育センター）	酒井達哉、原田信之、宇都宮明子 本論文の目的は、日本の生活科の課題を克服するために、認知系・非認知系コンピテンシーを輻輳的に育成する生活科授業の開発を通して、生活科教育の新しい展望を考察することである。そのために具体的な学習指導案の提案を通して、認知系コンピテンシーと非認知系コンピテンシーの輻輳的な育成を図る新たな生活科の授業構想と評価規準を明らかにすることが生活科の展望を拓くという本稿の結論を導いた。pp.26-34.
2.女子大学を卒業した	共	2021年3月	『学校教育セン	酒井達哉、佐々木顕彦、西本望、伊藤博章

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
若手教員の意識と研修課題に関する調査研究 －新卒3年目までの小学校教員を対象に－（査読付）			ター紀要』第6号（武庫川女子大学 学校教育センター）	本研究では、女子大学を卒業した新卒3年目までの正規採用の小学校教員を対象に、若手教員の意識や研修課題及び卒業生支援に対する要望を調べ、それらに対する方策について検討を行った。調査の結果、卒業生の若手教員の多くが教職にやりがいを感じながらも、採用前の予想を上回る学校現場の厳しい困難な現実に直面し、それぞれに研修課題を抱いている実状が明らかになった。pp.56-67.
3.昭和戦前期の小学校における俳句指導 一兵庫県古市尋常高等小学校を事例として一（査読付）	単	2021年3月	『教育学研究論集』第16号（武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻）	本稿の目的は，大正末期の俳句指導の興隆期から９年余りを経た，昭和戦前期の1930年代後半に再興の時期を迎えた兵庫県古市尋常高等小学校が，俳句指導によって目指そうとしていた教育とは何であったのかを明らかにすることである。大正末期の同校の俳句指導と比較すると，1930年代後半においては，俳句という表現形式を使って，郷土の自然や身近な生活に目を向けることにより，児童の自然に対する感受性や言語感覚を豊かにするという点がより鮮明になってきている。pp.9-17.
4.横断的・縦断的な接続を図る生活科の再構築－ノルトラン・ヴェストファーレン州事実教授レアプランを手がかりに－	共	2020年1月	『人間文化研究』33号（名古屋市立大学大学院人間文化研究科）	原田信之、酒井達哉、宇都宮明子 本論文の目的は、日本の生活科の課題を克服、新しい生活科として再構築するための方途を明らかにすることである。そのためにドイツのＮＲＷ州の事実教授レアプラン等を分析し、生活科の課題を克服するための方策を提示するとともに、コンピテンシー志向への実質的な転換が生活科の課題を克服した新しい生活科を再構築するための方途であると結論づけた。pp.39-63.
5.昭和初期における生活教育の展開 ―兵庫県古市尋常高等小学校の「教科の生活化」に注目して ―（査読付）	単	2017年12月	『日本教科教育学会誌』第40巻第3号（日本教科教育学会）	本論文の目的は、昭和初期、すなわち1927（昭和2）年から1929（昭和4）年までの時期に、一般の公立小学校において行われていた生活教育の実践は、何を目指して、どのように展開されたのか明らかにすることである。この目的のために焦点を当てたのは、兵庫県古市尋常高等小学校で行われた生活教育実践であり、同校に関する資料を用いることにより「生活教育の徹底」という兵庫県の教育方針に基づき、同校は児童の学習を生活と結びつけるという「教科の生活化」を独自の視点から進めたことである。pp.1-11.
6.大正末期における小学校の俳句指導－兵庫県古市尋常高等小学校を事例として－（査読付）	単	2017年3月	『国語科研究』第81集（全国大学国語教育学会）	本研究の目的は大正末期に古市尋常高等小学校において展開された、俳句指導の特徴とその実践的意義を、それを支えた地域的基盤に留意しつつ明らかにすることである。大正末期、俳句に対して強い関心があった地域を背景に、同校では自ら俳句を詠む教員の指導により児童が大いに俳句を詠んだ。また、俳句による表現の指導が行われ、兼題や賞の設定などを取り入れることによって作句の動機付けが図られた。俳句は定型詩という制約をもつものであるが同校では、あえて定型詩の形をとるなかで子どもらしい、ものの見方や考え方を表現することが指導された。pp.41-49.
7.歴史意識の基礎を育成する生活科授業開発－学校の今と昔に着目して－	共	2017年1月	『人間文化研究』27号（名古屋市立大学大学院人間文化研究科）	原田信之、酒井達哉、宇都宮明子 本研究の目的は、ドイツの事実教授教科書における時間学習に関する単元の分析を基にして歴史意識の基礎を育成する生活科授業開発を行うことである。そのために、まず、生活科において歴史意識をどのように育成すべきかを考察し、時間意識の育成のためのドイツ及び日本の教科書の内容構成について考察した。それをもとに生活科における時間学習の授業を学校の今と昔に着目して開発し、実際に公立小学校で実施し、授業分析を行った。その授業を歴史認識の基礎を育成するという視点から評価し、生活科における歴史意識の基礎を育成する授業の在り方を究明することを試みた。pp.119-142.
8.Images of a shift from progressivism to militarism（査読付）	単	2016年11月	*History Education Researcher*, Number98(History of Education Society)	Furuichi Jinjo Higher Elementary School (FJHES) is located in Japan. FJHES was influenced by Heiji Oikawa, known as the 'Japanese Dewey' in the 1920s and educated students based on their own lives and interests. In this study, I highlight the school's anthologies of students' writings, published under the title 'Mebae', during the period of political change from 1925 to 1941. The manner in which the school taught writing skills was based on a broadly child-centred approach to education. The content of the children's compositions changed drastically in terms of supporting

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				war, even though they struggled to stand up against government and civil oppression. A companion piece to the present article studies in depth the children's writing. pp.87-98.
9.言語活動を媒介とした生活教育から郷土教育への移行－昭和初期の兵庫県古市尋常高等小学校を事例として－ （査読付）	単	2016年3月	『臨床教育学研究』 第21号（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科）	兵庫県古市尋常高等小学校は昭和初期に子どもの生活と言語活動とを関連させて生活教育の実践を基盤として郷土教育に取り組んだ学校の一つであった。本稿では、1931（昭和6）年から1933（昭和8）年までの3年間の同校の郷土教育に焦点を当て、生活教育から郷土教育への移行の過程や郷土教育の内容に見られる特徴や傾向を資料にもとづいて明らかにした。pp.1-16.
10.Ｊ．デューイ「言語論」における言語の機能論とレシテーションの再検討 （査読付）	単	2014年3月	『臨床教育学研究』 第19号（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科）	本論の目的は、Ｊ．デューイの研究者として著名な田浦武雄の論文「デューイの言語論」（1984）を取り上げ、田浦によって5つに分類された「デューイの言語の機能論」と「デューイの言語教育論」の内のレシテーションに着目し、田浦が要約し解説した「デューイの言語論」を吟味・検討することにある。デューイがレシテーションを軽視したわけではなく、むしろ、新しい観点から捉えようとしており、そこに教育改革の可能性を求めたということが解明された。pp.1-17.
11.国語科と「各教科等における言語活動」との関連についての研究 －総合的な学習の時間との関連を中心に－ （査読付）	単	2012年3月	『言語表現研究』第28号（兵庫教育大学言語表現学会）	本研究では、六年生の実践例をもとに、国語科と総合的な学習の時間との関連的な指導を効果的に展開するための方途について考察した。国語科での学習成果と総合的な学習の時間の学習活動との関連を図る年間指導計画を作成することにより、指導の内容及び時期に配慮し両者が相互に効果を高め合い、国語科において身に付けた言葉の力をより効果的に活用できるように見通しをもって指導することができることを明らかにした。pp.11-22.
12.総合的な学習の時間の一層の充実を目指して －地域教材を生かした魅力ある授業づくり－	単	2009年11月	『第58回 読売教育賞受賞者論文集』（読売新聞社）	第58回読売教育賞の生活科・総合学習部門で最優秀賞を受賞した教育実践論文。本実践では、教師は児童の成長を促すために様々な手立てを行った。例えば、地域の貴重な篠山層群の化石を発掘調査するという感動を伴う体験学習を通して、化石の魅力を伝えたいという課題意識を醸成していったこと。さらに、国語科と関連させ、フォーラムなどでの情報発信に向けて表現力の向上を図るために、協同的な学習を積極的に取り入れたことなどである。本論文では児童の学びの軌跡と教師の手立て、そして、その効果を記載している。pp.77－93.
13.地域を愛する心を育み､自信や良さの伸長を図る魅力ある授業づくり	単	2008年4月	『第23回東書教育賞入選論文』（東京書籍）	第23回東書教育賞の教科指導・学校経営部門で最優秀賞を受賞した教育実践論文。地域の特色を生かした総合的な学習のカリキュラムを工夫して構成、実施することで、児童の自信や良さの伸長を図ることをねらい、全70時間の取り組みを進めた。地域の自然をテーマとした学習を、学びの動機付けや教師の手立てを工夫して展開することにより、児童は学習成果発表会を成功させたいという目的意識を高め、意欲的に学習活動を、そして、学校生活を送ることができた。本論文は児童の学びの軌跡と教師の手立て具体的に示したものである。pp.22－31.
14.児童の自信や良さの伸長を図る「特色ある教育活動」 －総合的な学習の時間の一層の充実を目指して－	単	2006年9月	『教育のあゆみ』（兵庫教育大学付属小学校教育研究会）第33号	教育実践に基づいた論文。「特色ある教育活動」をより意味のあるものにするため、その活動を通して児童にどんな力を付けるのかという視点を重要視した。児童が教科で培った基礎的な表現力を地域の特色を生かした総合的な学習の時間の中で応用し、いかに児童の自信や良さの伸長を図っていったかを具体的な実践例をもとに述べた。また、その効果を数値評価、作文の分析により明らかにした。pp.16－21.
15.豊かな表現力を育成する 総合的な学習の授業づくり	単	2005年9月	『学習情報研究』（学習ソフトウェア情報研究センター）第186号	教育実践に基づいた論文。表現力の育成を核とした総合的な学習の時間を学びの動機付けを重視して展開することにより、児童たちは学びの目的意識を高め、意欲的に学習を進めることを数値による評価や「振り返り作文」の分析により明らかにした。特に注目したいのは総合的な学習の時間での学びは教科学習に向かう意欲も培ったということである。pp.27-30.
16.篠山のゲンゴロウを守るために私たちにできること －地域	単	1999年2月	『兵庫教育』（兵庫県立教育研修所）第576号	兵庫県立教育研修所主催の「生きる力を育む学習指導」をテーマとした実践論文募集において特選に選ばれた論文。「生きる力を育む」ことと教育実践・学習指導との理論付け・関連を具体的に示し

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
素材を生かした総合的な学習の試みー				た。地域教材としては絶滅の心配のある水生昆虫「ゲンゴロウ」を取り上げ、他教科と関連させた総合的な学習の時間において、創意工夫を凝らした展開とポートフォリオ、及び児童の意識の変容等を示した。pp.10-15.
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.教科学習と関連させた総合的な学習の多面的な効果	共	2005年9月	日本教育工学会 第21回全国大会 シンポジウム（於 徳島大学工学部）	村川雅弘、酒井達哉。総合的な学習の充実のためには，教科等との関連を含めた全体計画の作成や評価の工夫が重要である。本発表では、５年生の実践をとり上げ、総合的な学習と教科等を関連および評価の工夫のための具体的な手だてとそのことによる多面的な効果について児童に対する多様な調査結果と具体的な姿により明らかにした。
2．学会発表				
1.昭和戦前期の小学校における俳句指導ー兵庫県古市尋常高等小学校を事例としてー	単	2020年11月	関西教育学会『第72回大会口頭発表』	本研究の目的は、大正末期の俳句指導の興隆期から９年余りを経た、1930年代後半に再興の時期を迎えた同校では、俳句指導によって目指そうとしていた教育とは何であったのかを明らかにすることである。昭和戦前期の1930年代後半に古市校では、俳句講座を開催すること、さらに、学校文集『芽生え』に児童の俳句や俳句を題材にした綴り方を掲載することにより、児童の作句への意欲付けや俳句の技法や鑑賞の仕方の習得が図られた。
2.コンピテンシー志向への実質的転換をめざす生活科教育の再構築ー統合原理と接続原理の教科ー	共	2020年8月から９月	日本学校教育学会　2020年度研究大会代替自由研究ポスター発表	酒井達哉、宇都宮明子、原田信之 本発表の目的は ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州 の事実教授レアプランの分析に基づいて 従来から提起されている日本の生活科の課題を克服した生活科 教育を再構築するための方途を明らかにすることである。日本の生活科の課題を克服し 縦断的・横断的な接続を図る生活科を再構築する方途はコンピテンシー志向への実質的な転換であるというのが本発表の結論である。
3.歴史意識の基礎を育成する生活科授業開発ー学校の今と昔に着目してー	共	2016年10月	日本教科教育学会第42回全国大会（於 鳴門教育大会）	酒井達哉、宇都宮明子、原田信之 本発表の目的は、ドイツの事実教授教科書における時間学習に関する単元の分析をもとにして、歴史意識の基礎を育成する生活科授業開発を行うことである。そのために、まず、生活科において歴史意識をどのように育成すべきかを考察し、時間意識の育成のためのドイツ及び日本の教科書の内容構成について考察した。それをもとに生活科における時間学習の授業を学校の今と昔に着目して開発し、実際に公立小学校で実施し、授業分析を行った。
4.兵庫縣古市尋常高等小學校における郷土教育の傾向と特徴	単	2014年10月	教育史学会　第58回大会（於 日本大学文理学部）	本発表では、及川平治やデューイの影響を受けた兵庫県古市尋常高等小学校の教育の重点が生活教育から郷土教育へと移り変わっていく過程にいかなる傾向や特徴があったのか、同校の資料である『郷土調査』（1932年『』『郷土讀本 高等科用』（1933年）等を用いて明らかにした。
5.Japanese children's writing from progressivism to militarism during the later 1930s.	単	2014年7月	The History of Education Society（於 ロンドン大学）	This paper focuses on written composition as taught at Furuichi Jinj？ Higher Elementary School from 1924 to 1940, in a period of national political turbulence. With an essay collection titled “Mebae” (“The growth of children's mental awareness”) as a primary historical source, drastic changes in the compositions written by the children are revealed.
6.兵庫縣Ｆ尋常高等小學校における綴方教育とその変容	単	2013年11月	関西教育学会　第65回大会（於 和歌山大学）	本発表では、1924(大正13)年から国民学校令前年の1940(昭和15)年までの政治的変動期の兵庫縣F尋常高等小學校の綴方教育に焦点を当て、子どもの生活にもとづいた綴方から戦争協力を色濃く反映した綴方へとドラスティックに変容していく様相を同校の資料、学校文集『芽生え』から明らかにした。
7.デューイ言語教育論の受容とその特徴 ー兵庫縣Ｆ尋常高等小學校を事例としてー	単	2013年9月	日本デューイ学会第57回研究大会（於 新潟青陵大学）	本発表の目的は、デューイの言語教育論が、経験論と共に日本の学校教育にどのように受容され、それがどのような特徴をもっていたのかを明らかにすることである。この目的にアプローチするために、兵庫縣Ｆ尋常高等小學校における1927年度の言語教育に焦点を当てた。
8.Ｊ・デューイ「言語論」再考 ー田浦武雄	単	2012年11月	関西教育学会　第64回大会（於 奈良	本発表では田浦武雄の「デューイの言語論」(1984)を取り上げ、彼が引用・解釈しているデューイの原典がどこにあるのかを確認し、

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
論文(1984)にもとづいて－			女子大学）	田浦解釈によるデューイの言語論の構造、その解釈の特徴を考察した。その際に、デューイの著作 The Primary - Education Fetich (1898)などにも目を向け、彼の言語や言語教育に関する論述を再検討した。
9.国語科と他教科等における言語活動との関連についての研究－総合的な学習の時間での合科的・関連的な指導を中心に－	単	2010年10月	全国大学国語教育学会 第119回鳴門大会（於　鳴門教育大学）	国語科と総合的な学習の時間との合科的・関連的な指導をより効果的に行うための要点として、① 国語科と総合的な学習の時間とを効果的に組み合わせる指導計画の構築　② 国語科で身につけた力を総合的な学習の時間と関わらせていく学習活動の設定　③ 総合的な学習の時間において活用した言葉の力と国語の学習との相互補完的関連の確認を設定した。実践事例を分析することにより、この３つの要点が有効であるとが明らかになった。
10.小・中学校「総合的な学習の時間」指導事例集（仮）作成プロセスでみえてきた課題を考える	単	2010年6月	日本生活科・総合的学習教育学会 第19回全国大会 京都大会 課題研究発表（於 立命館小学校）	年間指導計画は1年を俯瞰して探究活動のまとまりである単元を配列し、1年という時間の中での学習活動を構想するためのものである。年間指導計画を作成するためには次の手順が考えられる。（１）素案の作成（２）吟味・修正・改善（３）管理と運用。この具体的な手順を実践事例をもとに発表した。
11.言語活動の展開に関する研究 －総合的な学習の時間と国語科の関連－	単	2010年6月	日本生活科・総合的学習教育学会 第19回全国大会京都大会（於 立命館小学校）	本研究では言語力の育成の基盤となる国語科と関連させた実践事例を分析することにより総合的な学習の時間における言語活動を充実させる要件を明らかにすることを目的とした。明らかになった要件は、①言語活動に必然性を持たせ、学びの意義を実感させる。②言語活動の年間指導計画に基づいて、身に付けたい言語力を明らかにして授業をつくる。③自分にどのような言語力がついたか振り返りをさせる等である。
12.図書館の利用によるリテラシー向上と生活・総合 －学校図書館を活用し、子どもの表現力を高める工夫－	単	2006年6月	日本生活科・総合的学習教育学会 第15回全国大会 とやま・射水大会 課題研究発表 （於 富山大学人間発達科学部付属学校園）	生活科・総合的な学習と図書館・図書とを有機的に関連させながら、いかに読解力や表現力などのリテラシーを高めていくのいか、そのためには図書館がどのような役割を担っていけばよいか、学校全体としてどのような条件整備を行って行けばよいのか、具体的な実践をもとに考察し、発表した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.鳴尾いちごの歴史	単	2022年4月	「なるお通信Vol.4」（鳴尾エリアマネジメント連絡会）	鳴尾いちごの歴史についてのコラム。p.3.
2.セミナーの記録：田村学氏「新学習指導要領の方向性」－深い学びの実現に向けて－	単	2021年3月	『教育学研究論集』第16号（武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻）	2020年２月８日，國學院大學人間開発学部教授の田村学氏をお招きして，武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻主催のセミナーとしての講演会を行った。本記録は，田村学氏の講演内容を酒井が要約したものである。pp.72-75.
3.鳴尾いちごを地域教材として活用した「ふるさと教育」の授業づくり	単	2020年12月	地域連携協議会（主催：武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室）	鳴尾いちごとは大正から昭和初期にかけて兵庫県鳴尾村において盛んに栽培された、いちごの総称である。本発表においては、鳴尾いちごを「ふるさと教育」における地域教材として効果的に活用するための研究活動の報告を行った。
4.伝統文化の学びの充実事業 実践事例集	共	2020年3月	兵庫県教育委員会	2020年１月に行われた兵庫県教育委員会主催の「伝統文化の学びの充実事業全県発表会」において、酒井が行った記念講演「教科等横断的に取り組む伝統文化教育の推進」の概要である。p.54.
5.令和元年度学校教育センター研究部門全研究員集会　教師教育研究部門・第３研究セクター報告（概要）	単	2020年3月	『学校教育センター紀要』第5号（武庫川女子大学学校教育センター）	本報告は、ア）本学の小学校教員に就いた卒業生がどのような研修を必要としているか、イ）卒業生に対する学校教育センターの支援の在り方はどうあるべきか、を明らかにすることを目的とし、平成28年度から平成30年度にかけての武庫川女子大学の卒業生で、卒業の翌年度から公立小学校に正規採用された方に対して実施した調査結果の概要である。pp.164-165.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6.丹波篠山のいきものたち	共	2020年3月	丹波篠山市農都創造部農都環境課	監修：酒井達哉 本冊子は、丹波篠山市に生息する代表的な生き物や絶滅の恐れがある生き物、そして、それらを取り巻く環境や市民の暮らしとの関わりを紹介するものである。（全頁数23頁）
7.平成29年度 博士学位論文要旨「大正末期・昭和初期の農村部小学校における生活教育の展開 －兵庫県古市尋常高等小学校の事例にもとづいて－」	単	2018年8月	『武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科研究誌』第24号（武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科）	本研究は、大正末期から昭和初期の農村部小学校の生活と教育の結びつきの諸相を生活教育と捉え、その展開に注目し、その内実や特徴を実践の背景とも関連づけて明らかにするものである。それにより、農村小学校において行われた生活教育の豊かな内実を明らかにし、これまでのやや狭い生活教育の捉え方を越えて、それについての新たな知見を提供することができた。pp.33-44.
8.総合的な学習の時間と国語科の関連性に着目した言語活動の展開	単	2017年8月	『教職の先達（2014-2015)』第3号(兵庫教育大学大学院同窓会)	本稿では、国語科と総合的な学習の時間との関連的な指導の在り方について、４年生「オオムラサキ新聞を作ろう」の実践をもとに述べている。それは新聞作りという言語活動において総合的な学習の時間を関連させた授業実践である。pp.44-45.
9.生活科において歴史教育の視点から社会認識の基礎を育成するスタンダード開発研究	共	2017年3月	「平成26年度～平成28年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））研究成果報告書」	研究代表者…酒井達哉 研究分担者…宇都宮明子、原田信之 研究代表者として、研究の概要、第一部第Ⅳ章、第二部資料を担当。pp.1-4, pp.50-72, pp.75-88.(全頁数89頁)
10.学校教育館の施設を活用した環境学習の教材研究	単	2016年3月	『平成27年度年報』第1号（武庫川女子大学 学校教育センター）	「第三部 地域貢献」の章において、西宮市の教育施設と連携して実施した「鳴尾いちご」及び「西宮メダカ」の教材研究の成果について報告した。p.82.
11.「初等教育の迷信」(1898)	単	2014年3月	『教育学研究論集』第９号（武庫川女子大学大学院文学研究科教育学専攻）	ジョン・デューイ著「初等教育の迷信」(The Primary-Education Fetich)の翻訳。本邦訳の定本としては『ジョン・デューイ，初期作品集，1882-1898，第5巻:1895-1898』（The Early Works of John Dewey，1882-1898，5:1895-1898，Early Essays（Southern Illinois University Press，1972）を用いた。pp.117-124.
12.「子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究」【教員調査ワーキンググループ】報告書	共	2013年6月	独立行政法人 国立青少年教育振興機構	立田慶裕、秋田喜代美、今西幸蔵、酒井達哉、荻野亮吾、野村和、松本美智子。 教員調査ワーキンググループ委員として、第Ⅱ部「学校教員調査」第５章「教員のメディアの利活用と学習」を担当し、メディアの利活用においては、テレビ、インターネット、新聞等について分析し、さらに、教員が教材研究や生徒指導上の問題を解決する際の手法をまとめた。pp.122-134.（全頁数218頁）
13.総合と国語科との関連性に着目した言語活動の展開	単	2012年7月	「生活&総合教室」第64号(日本文教出版)	本稿では、総合的な学習の時間と国語科とを意図的に関連させることにより、国語科で身に付けた力をより確かなものにすることができ、同時に総合的な学習の時間における言語活動も充実させることができるということを事例をもとに述べている。pp.11-13.
14.総合的な学習の時間と関連させた国語科の授業づくり	単	2011年10月	「生きる力を育むことばの授業」13号（東京教育研究所関西分室）	本稿では、国語科と総合的な学習の時間との関連的な指導の在り方について、４年生「オオムラサキ新聞を作ろう」の実践をもとに述べている。それは「新聞」作りという言語活動において総合的な学習の時間を関連させた授業実践である。pp.4-5.
15.言語活動の展開に関する研究	単	2011年3月	「平成22年度ベネッセ教員育成研究奨学金 研究成果報告書」（兵庫教育大学）	本研究においては，実践事例を分析することにより、国語科と総合的な学習の時間との合科的･関連的な指導を効果的に行うための次の3つの要件を導き出した。①国語科と総合的な学習の時間とを効果的に組み合わせる指導計画の構築、②国語科で身につけた力を総合的な学習の時間と関わらせていく学習活動の設定、③総合的な学習の時間において活用した言葉の力と国語の学習との相互補完的関連。pp.104－113.
16.児童、教師、地域が一体化した総合的な学習の時間	単	2011年2月	「生活&総合教室」第60号(日本文教出版)	本実践では、地域の貴重な篠山層群の化石を発掘調査するという感動を伴う体験学習を通して、化石の魅力を伝えたいという課題意識を醸成していったこと、さらに、国語科と関連させ、フォーラムなどでの情報発信に向けて表現力の向上を図るために、協働的な学習を積極的に取り入れたことなど、多様な教師の手立てについて述べている。pp.1－8.
17.地域教材はみんなの	単	2010年3月	「福山のこれから	地域教材を教科学習や総合的な学習の時間などと関連させること

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
宝			の保育・教育を考える」第3号(福山市立女子短期大学)	で、子どもに、その学習と日常生活の関連を見いださせたり、地域に対する愛着や誇りを育んだりすることができること。さらに地域の素材を教材化することによって学校と地域とのネットワーク化を進め、学校と地域の協働の場をつくることにより、地域に開かれた学校にすることができるという酒井の主張がまとめられている。pp.14－16.
18.化石から何が見える？	単	2009年9月	『いちばん受けたい授業』（朝日新聞社）	2008年11月8日に朝日新聞の全国版に「花まる先生公開授業」において「化石から何が見える？ 」の見出しで紹介された、地域の化石を扱った総合的な学習の時間の時間の実践が書籍の中で再度、酒井達哉のコメントと共に掲載されている。PP.250－253.
19.連載コラム「子どもの環境」	単	2008年11月から2010年3月まで	月刊『学校給食』（全国学校給食協会）	「恐竜からのメッセージ」を連載コラムの題名とし、地域の地層から恐竜などの化石を探し、調べたことを発信していく環境学習の具体的な様子を資料や児童の作文を交えながら紹介した。（毎月１頁）
20.大山自然環境フェスタ －地域の希少動植物を守る－	単	2008年7月	『こどもと教育』（兵庫教育文化研究所）第130号	実践に基づいた論文。本実践では、春に５年生の総合的な学習を始めるに当たって、児童用の生活面、学習面でつけたい力の観点を映像や資料をもとに具体的に説明した。また、新たな単元を展開するたびに、つけたい力との関連を位置づけて説明し、学習の節目には５段階の数値でも自己評価を行った。春に設定した付けたい力の項目の数値は、１年間で大きく伸び、児童の姿や文章による自己評価からも、目標は概ね達成できたと分析した。pp.18－29.
21.ワークショップを活用し言語力を高める授業の工夫	単	2008年7月	「第38回社会科・生活科・総合 全国教育研究大会紀要」	新学習指導要領で重視される言語力を育む指導をワークショップを活用して効果的に情報発信を行う手法とその効果について述べている。国語科で培った力を活用して、形成的な評価活動を児童が意欲的に行い、コミュニケーション能力を高めるとともに、言語力の育成を図ることができる。pp.11－16.
22.道徳の時間への「いきいき学校応援団」の導入事例	単	2008年3月	「道徳教育実践事例集」（兵庫県教育委員会）	自作資料の主人公である、江戸時代の俳人「西尾武陵」の子孫であるＡさんに、生家や俳諧資料を守り伝えられている思いや意義について、児童に直接、話をしていただくことにより、教師の作成した自作資料だけでは伝わらない本物の価値にふれさせ、児童の道徳的価値の自覚を促すことができたという事例を紹介した。pp.54－56.
23.日本のキーパーソン47　子供に環境を教える	単	2008年3月	『環境会議』（株式会社宣伝会議）	兵庫県の代表として、「学校に動植物の『すみか』を実現」のテーマで、酒井達哉の総合的な学習の時間の授業の様子が紹介される。p.281.
24.総合的な学習のカリキュラム開発に連動したワークショップ型研修システムの開発	共	2007年3月	「平成17年度～平成18年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））研究成果報告書」	研究代表者　村川雅弘。藤原伸彦、酒井達哉、江口慎一、澤田強志、岡本弘子、竹中剛志。 研究協力者として、第５章「総合的な学習の時間のコーディネイトと校内研修の充実」を担当した。pp.95-111.（全頁数179頁）
25.子どもの自信やよさの伸長を図る総合的な学習を目指して	単	2006年8月	「第36回社会科・生活科・総合 全国教育研究大会紀要」	実践に基づいた論文。総合的な学習の時間の地域教材として絶滅の心配のある植物サギソウを扱い、児童がサギソウを守るために意欲的に学習に臨むようになる手立てと効果を示した。学習のゴールとなる情報の発信の段階まで目的意識をもって学習を進める姿があると、その学習活動は児童自身が学ぶ価値があると捉えていることが多様な評価方法により明らかになった。pp.58－65。
26.地域でさぐる取り戻しの道－ 今田のサギソウ復活大作戦－	単	2006年7月	『食農教育』2006年７月号	絶滅の心配のある植物「サギソウ」の保護活動をテーマとした学習を、学びの動機付けや教師の手立てを工夫して展開することにより、児童は目的意識を高め、意欲的に学習活動を、そして、学校生活を送ることができたという事例を具体的に紹介している。pp.71-77.
27.総合的な学習における学びの連関性を強めるカリキュラムの開発と評価に関する研究	共	2006年3月	「平成16年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（Ｃ））研究成果報告書」	研究代表者 小西正雄。山崎洋子、村川雅弘、野口徹、酒井達哉、三橋和博、太田康治、藤本義彦。 研究協力者として＜実践編＞第7章「豊かな表現力を育成する総合学習の授業づくり」を担当した。pp.53-60.（全頁数86頁）
28.地域の協力を受け子どもたちの自信を育む	単	2005年7月	「VIEW21特別号小中学版」（ベネッセ教育研究開発セ	「地域の協力を受け子どもたちの自信を育む」がテーマで篠山市立今田小学校における酒井の実践事例が紹介された。内容は、地域は丹波焼の里としても知られ、数多くの窯元が点在。その地の利を生

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
			ンター）	かし、校内に本格的な登り窯を設けるなど、伝統文化を取り入れた教育に力を入れていることなど。pp.12-pp.15.
29.目指そう 心をつかむ発表を　－酒井達哉先生の総合的な学習の時間－	単	2004年12月	ＮＨＫ教育テレビ「わくわく授業－わたしの教え方－」	ＮＨＫ教育テレビにおいて、約30分間、全国放送で約半年間に及ぶ総合的な学習の時間の授業方法が紹介された。内容は５年生が地域の動植物の保護活動を通して学んだことを発表原稿にまとめて、表現方法を工夫して公共施設でプレゼンテーションを行うまでの過程を描いたものである。児童の最後まで地域の動植物を守りたいという目的意識を持って、学習に臨み、表現力も高めることができた。
30.地域の貴重な自然を生かした授業づくり－「いのちのまほろば　今田小版」を通して－	単	2004年8月	『兵庫教育』（兵庫県立教育研修所）第642号	篠山市立今田小学校において実践した、ギフチョウやハッチョウトンボなどの地域の貴重な動植物を育て保護する総合的な学習の時間の授業について報告した。pp.60-63.
31.今田のサギソウ復活大作戦 －地域と自然を愛する心を育む総合的な学習－」	単	2004年4月	『総合学習事例集（生物関係）』兵庫県生物学会編	本書は、地域社会のなかで意欲的に取り組める課題、教材になるものを具体的実践を通して紹介するもので「今田のサギソウ復活大作戦 －地域と自然を愛する心を育む総合的な学習－」の項を担当。pp.14-23.（全頁数98頁）
32.登り窯で「サギソウの花器」 を焼こう －陶芸家の指導で高まる意欲、磨かれる表現力－		2003年9月	「造形教育通信」第17号（東京書籍）	篠山市今田小学校において、総合的な学習の時間に丹波焼と並ぶ地域のシンボルであり絶滅が心配される美しい草花、サギソウを守る活動を行った。この２つのシンボルを融合させた造形活動として、「サギソウの展示用花器」を陶芸家の指導を受けて成形し、学校の登り窯で焼き上げる授業構想を述べた。p.10.
33.　自然体験で磨かれる感性	単	2003年7月	神戸新聞「論」（2003年7月7日版）	コンピュータ画面での疑似体験があふれる今だからこそ、子どもたちの将来を支える「生きる力」を育むためには、本物とふれあう自然体験の機会と場を学校や地域で大人達がつくり、進めていくことが必要であるということを述べた。
34.意欲満タン－学びの目的意識膨らませ	単	2003年4月	『学校の力 ひょうご・教育最前線』（神戸新聞社会部）	酒井の実践を紹介した神戸新聞の社会面の特集記事が、書籍『学校の力 ひょうご・教育最前線』の中に「意欲満タン－学びの目的意識膨らませ」の題でまとめられた。pp.191-pp.193.
35.地域と自然を愛する心を育む総合的な学習	単	2001年4月	『第16回東書教育賞入選論文』（東京書籍）	教科指導や学校経営に関する部門で奨励賞を受賞した論文の要旨。実践の特色としては（１）自然の中での体験を重視した学習（２）地域での情報の収集と発信（３）研究者や関係機関との交流があげられる。意欲的に学習に臨むような手立てを示してやることが、課題意識の向上につながることが多様な評価によって明らかになった。P.46.
36.希少淡水魚オヤニラミを守ろう	単	1996年1月	『兵庫教育』（兵庫県立教育研修所）第539号	篠山市立村雲小学校において実践した、絶滅の心配のある淡水魚「オヤニラミ」の保護活動について報告した。pp.58-59.
６．研究費の取得状況				
1.科学研究費補助金 研究種目：基盤研究（C）（一般）	共	2019年4月から2023年3月	文部科学省・日本学術振興会	研究課題名：分化後の教科コンピテンシーの特性に着目した統合教科生活科の授業と評価モデルの開発 ・研究代表者：酒井達哉
2.科学研究費補助金 研究種目：基盤研究（C）（一般）	共	2014年4月から2017年3月まで	文部科学省・日本学術振興会	研究課題名：生活科において歴史教育の視点から社会認識の基礎を育成するスタンダード開発研究 ・研究代表者：酒井達哉
3.ベネッセ教員育成研究奨学金	単	2010年4月から2011年3月まで	株式会社ベネッセコーポレーション･兵庫教育大学大学院	研究課題名：言語活動の展開に関する研究

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2022年12月	兵庫県教育委員会「地域自慢映像大賞」における審査委員
2.2020年4月から2021年3月	丹波篠山市の鳥選定委員会　副委員長
3.2020年から現在	日本学校教育学会 会員
4.2018年から現在	芦屋市放課後子どもプラン運営委員会　委員長
5.2017年から現在	丹波篠山市環境審議会　委員

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
６．研究費の取得状況	
6.2015年から現在	日本教科教育学会 会員
7.2013年から現在	教育史学会 会員
8.2012年から現在	関西教育学会 会員
9.2009年から現在	全国大学国語教育学会 会員
10.2006年から現在	日本生活科・総合的学習教育学会 会員